

2025 年 6 月 6 日 第 3514 回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 高橋 会長

<斉 唱> 「君が代」「奉仕の理想」

<唱 和> 「四つのテスト」

<ゲスト紹介> *米山奨学生 朴 裁 潤 様

<誕生月祝> *勝 間 佳 枝 (S. 8.6. 1) *植 田 威 (S. 34.6. 1)

*山 田 晴 史 (S. 36.6. 1) *梶 木 洋 平 (S. 54.6. 4)

*小 澤 長 幸 (S. 44.6. 10) *柴 田 朋 彦 (S. 46.6. 12)

*加 藤 淳 (S. 37.6. 18) *齋 藤 眞 且 (S. 28.6. 19)

*笠 木 英 文 (S. 22.6. 23)

各会員

<入 会 月 祝> *江 沢 暁 彦 *五十嵐 俊 男 *勝 見 慎 一 *山 下 和 男

*鈴木 孝 博 *八 木 達 也 *久保田 英 朗 *渡 邊 磨

*鹿 島 勇 *木 村 一 郎 *松 本 明 弘 *加賀本 好 美

*来 生 亮 *加 藤 淳 *大 野 健 男 *岡 田 圭 太

*永 井 信 年 *小 澤 長 幸 *柴 田 朋 彦 *沼 田 裕 一

*荊 山 寛 樹 *三 井 英 夫 *吉 田 久 美 子

各会員

<会 長 報 告> *鹿島会員 旭日中綬章受章お祝い 贈呈



*国際ロータリー日本事務局より

・ロータリーレート 6月1日より1ドル142円⇒144円

*ガバナー事務所から

・地区会員増強委員会で使用する資料提供のお願いについて

各クラブの簡単な奉仕活動の説明とその写真2-3枚程度の提供

<米山奨学生へ奨学金授与> 会長より朴 裁 潤様へ

<委員長報告> *職業奉仕委員会 椿委員長より職場見学会報告

*雑誌委員会 杉浦委員長よりロータリーの友6月号の紹介

*出席委員会 角井副委員長から5月分出席報告 5月分平均出席率 69.54%

	会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
5月 9日	112名	104名	76名(6名)	28名	4名	76.92%
16日	112名	98名	60名(0名)	38名	4名	64.00%
23日	112名	101名	64名(2名)	37名	7名	69.61%
30日	112名	105名	68名(6名)	37名	3名	67.62%

<幹 事 報 告> *例会終了後国際奉仕委員会 開催

*例会終了後会員増強・維持委員会 開催

<出席報告> *出席委員会 角井副委員長から6月6日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM 出席数)	欠 席 数	マークアップ数	出 席 率
112名	105名	77名(3名)	28名	1名	74.29%

マークアップ：萩原会員 横須賀RAC例会 出席

<ニコニコ報告>

- ・三 役 米山奨学生 朴 裁潤さん、本日の例会もお楽しみください。
- ・石 田、佐久間、八 巻、田 邊、齋藤 眞、比 護、小山 隼 各会員
米山奨学生 朴 裁潤様ようこそお越しくださいました。勉学もロータリー活動も楽しく充実した学生生活を送ってくださいね。本日の例会もお楽しみください
- ・植 田、山 田、梶 木、小 澤、加藤 備、齋藤 眞、笠 木 各会員 誕生月祝いとして
- ・江 沢、五十嵐、山 下、鈴木 隼、八 木、渡 邊、鹿 島、
松本 朋、加藤 備、大野 健、岡田 隼、小 澤、沼 田、吉田 隼 各会員 入会月祝いとして
- ・沼 田、児 玉 両会員 誕生月祝いとして (5月分)
- ・三 役 沼田会員、本日の新会員卓話宜しくお願いします。総合医療センターの話も聞けますかね？楽しみにしています。
- ・大 石、児 玉、梁 井、井 上、池 田、谷、江 沢、佐久間、
植 田、鈴木 隼、濱 田、野 坂、飯 塚、権 田、松本 朋、山 下、
杉 浦、江 口、澤 田、小佐野、鈴木 豊、徳 永、Enora、田 邊、
前 田、齋藤 眞、根 岸、田 中、八 木、杵 渕 各会員
本日は横須賀市立総合医療センター沼田裕一会員による新会員卓話です。これまで医療の現場でご尽力されてきたご経験やお考えを伺える貴重な機会かと思っておりますのでどうぞよろしくお願いします。
- ・沼 田 会員 本日は卓話をさせていただきます。よろしくお願いします。
- ・三 役 鹿島会員、旭日中綬章受章おめでとうございます。益々のご活躍を祈念申し上げます。
- ・椿、大野 健、小 澤、梶 木、Loknath、北 村、濱 田、飯 塚、小林 (-)、上 林、
笠 木、澤 田、佐久間、鈴木 隼、前 田、齋藤 眞、長 尾、吉田 備、加藤 備 各会員
鹿島会員、旭日中綬章のご受章誠にありがとうございます。永年にわたるご尽力とご功績が高く評価され、今回の栄えある受章に至ったこと、心よりお祝い申し上げます。
- ・鹿 島 会員 ごぶさたしております。
- ・竹 株、高 橋、濱 田、八 巻、角 井、澤 田、岡田 隼、田 邊、齋藤 眞、根 岸 各会員
本日のタウンニュースに越川会員が紹介されてましたね。ドブ板通り商店街と第2潜水隊群コラボのスタンプラリーやサブサンド、サブドッグの誕生は、街の魅力を一層引き立て観光や地域経済の活性化が期待されますね。
- ・越 川 会員 「潜水艦に会える街・横須賀」を市外・県外に向けてアピールし、地元ヨコスカを盛り上げて行きます。
- ・岡田 隼、浅 葉、大野 健、吉田 隼、植 田、濱 田、松 川、
小山 隼、真 野、藤 村、齋藤 眞、根 岸、高 橋 各会員
三浦学苑軟式野球部が秋に続き春季関東大会でも優勝しました！！
本当におめでとうございます。素晴らしい結果に、心より拍手を送ります。今後の活躍も楽しみにしています。

<新会員卓話>

沼 田 裕 一 会 員

横須賀市立総合医療センターの沼田です。今日はこのようなお時間をいただきましてありがとうございます。

最近、皆さんも生成AIを使われることが多いと思いますが、私もロータリークラブでどんな話をしたら良いかということでチャットGPTと相談しました。そうしましたら、基本構成30分で、内容は自己紹介、経歴、自分の信念と、そして最後にはちゃんとロータリークラブに御礼を申し上げなさいと答えてくれました。たぶん私が考えるより賢い内容になっているなと思いました。

まず自己紹介になります。一言で言えば、熊本弁で「新しもん好きの肥後もっこす」というようなところです。こういった人は実は多いんじゃないかと思いますが、「新しいものがとても好きですが、一步遅れると面白くない」というような傾向があるかと思

います。ただ最近は少し大人になって、じっと我慢することもできるようになりました。生まれは昭和31年の5月10日です。小学生の頃は、巨人・大鵬・卵焼きの時代でしたので、草野球、少年野球に夢中でした。長島選手が大好きで、ちょうどこのスライドを作っていたら、火曜日に訃報があり本当にびっくりしました。日本中みんなが長島選手のことが好きだったというのは、変な話ですけどとても嬉しく感じました。私も小学校の頃は野球選手になりたいと思ひ、一生懸命頑張っていました。小学校5年生の時に同じ小学校の2年下に、当時すでに私より背が高く、原辰徳氏と東海大学相模高校で3番、4番を打った元プロ野球選手の津末英明君というのがいまして、体も大きいし全然レベルが違うスイングでボールも校舎の壁を越えるというようなことでびっくりし、早速野球選手は諦めました。次に僕は水泳も得意だったので、水泳の選手になりたいと思い、市の大会や県の大会の前に行われる泳ぎが早い人を集めての試合前準備に参加しましたところ、1学年下に松村鈴子さんという背泳選手がいまして、その子の泳ぎを見たら本当に水の上を滑るように泳いでいて、とてもかなわないということで、これではスポーツで身を立てることはできない、と諦めたような次第です。ただ、小学校の1年生の時は体育の通知表は3だったんですが、それ以降は中学校卒業までずっと5を取っていましたので、決して運動神経が鈍いわけではないんですけど、基本的には挫折の話です。

その後、熊本高校に進み、僻地医療に従事する、あるいは僻地の医療に貢献するという事で自治医科大学に進みました。1982年に卒業しまして、熊本赤十字病院で研修しました。ここはつい最近の熊本の大地震の時に災害拠点の中心になった病院ですが、そこでスーパーローテートという当時としては珍しい、内科だけとか整形外科だけとかではなく全科を勉強し、非常に短い期間で指導者がどんどん変わるという研修を経験し、非常にストレスフルだったんですけども大変役に立ちました。今では若いドクターたちがそういう形に近い研修を受けることができるようになっています。私は本当に良かったと思っています。

その後は、新和町立病院という熊本の天草の島の病院に行き、公立玉名中央病院というところでしばらくリフレッシュというか勉強し直しまして、また公立多良木病院という、多くの良い木と書きますが、本当に林業の盛んな山の中の病院に行きまして、9年間僻地での医療に従事しました。各々の病院が僻地の診療所をいくつか抱えているところで、私自身もそういうところに週に何日か出かけながら仕事をしました。本当にいい勉強になりましたし、本当に楽しかった記憶があります。ただマムシとかヘビが出るところがあつて、それだけは苦手な辛かったのを覚えています。いわゆるジェネラルフィジシャン（GP）という非常に幅広く全科を何でも見るというような仕事をして非常に楽しかったし、専門医と比べると専門のことはどうしても叶わないので気後れするんですけども、今から考えますと、何でもやって最強だったんじゃないかなと思います。

その後、研修した病院から帰ってきて心臓をやってくれないかということで、循環器内科医として10年間いました。いわゆる interventional cardiologist と言いますが、血管内治療を一生懸命やりました。冠動脈というのは2ミリから3ミリぐらいの血管で、その中の血管内手術をするというような仕事をしていま



した。そういうスペシャルな仕事と、先ほども申し上げましたように赤十字というのはもともと災害医療を行う病院ですけれども、災害医療を一生懸命やりました。僕は血管内手術をやるとはいえ、内科医なので災害医療の班に属しておりました。一班・二班は外科系の医師で、僕はいつも三班でした。一班・二班ぐらいまでは出ていくんですけれども、三班にはなかなか回ってこないの、いつも待機でした。ところが阪神淡路大震災の時はさすがに20何班まで出ましたので行ってきましたけれども、実はこの阪神淡路大震災あたりから日本の災害医療というのが本格的にしっかりされて、“DMAT”と皆さんよく聞かれると思いますけど、あれは阪神淡路大震災よりもっと後の話で東北大震災の後で確立されたようなシステムなんです。それまではほとんど赤十字が災害医療をやるといような状態でしたけれども、今はすごく進歩して良いんじゃないかと思います。

そういう中でインターベンション（心臓や血管の病気に対する治療法の一つ）をずっとやっております、NHKの「ためしてガッテン」にも出演したりしました。ただ、私としては、最も得意とするところではないところでテレビに出ましたので、なんとなくガッテンいかないというところがありました。

そして実はこの後、私は目を悪くしました。実際には細い血管をX線透視で見るので画像は大きくなるんですけど、ちょっと薄くなると見えなくなってしまうので、それでどうしようかなと思っていましたら、私の先輩から、国立横須賀病院が国立病院の統廃合に従って廃院になるということでしたが、国立横須賀病院は初期臨床研修病院という若い医師の教育ができる資格を持った病院でしたので、僻地で働く、あるいは働けるようなジェネラルフィジシャンを育てるような病院にするために、その病院を運営してくれないか、とのお話がありました。3年ぐらいずっと話が来て、最初は行くとは言わなかったんですけど、最後にちょうど目を悪くしましたし、頑張ろうと思って出かけました。最初は自分の仲間もほんの数人しか連れていけなかったのですが時間がかかりましたけれども、若い医師の教育もうまくなりました。

日本内科学会の関東地方会会長になれたのは、私としては非常に嬉しいことでした。日本内科学会には医師が約12万人います。関東地方会はその中で一番大きな会ですので、1万人を超える相当大的な会です。その会の会長になれたのは、若い医師の教育のために非常にたくさん発表させることができたことが一番大きな理由だったと思います。そういうところで病院経営に関しても、今では当たり前になりましたけど、連携とか特化とか、そういったものについていろいろ考案した論文について病院学会で表彰を受けたりすることができました。

幸い、病院経営がうまくなりました、平成26年（2014年）に自治体立優良病院表彰を受けました。これは経営と地域医療に良好な貢献をしたということで、実際は長期間にわたる黒字経営というのが基本です。そしてその次に平成27年度の自治体立優良病院の総務大臣表彰を受けましたが、これは更に1年長く黒字が続いてもらえるというものです。この時が約950の自治体病院の中で4病院だったと思います。成果が出たと思って非常に嬉しかったことを覚えております。これを1回受けると10年間もらえないんですけど、幸い10年間順調に過ごしまして、6月12日、来週の木曜日にまた表彰されることになりました。驚いたのは、前回は950病院中4病院だったのが、今度は850病院中3病院になっていることです。つまり100ぐらいの病院が、ほとんど合併だと思えますが消失しております。また、今回受賞した病院のうち2つの病院は不採算地区の病院ということで、自治体立病院が非常に厳しい状況で運営されているということのを是非知っていただければと思います。

自分の信念についてはいろいろ考えてみたんですけど、多分、僕は自然科学を学んだので事実は変えられないという感覚といいますか、ちょっと違う言い方をしますと、法律でそう決めていても真実は別にあるかもしれないと思うようなひねたところがあります。ただそれだけで、別に世の中で革命を起こそうとか考えているわけではありません。

もう一度これまでの経歴を見ますと、私は心筋梗塞や狭心症など虚血性心疾患を対象に冠動脈内手術を専門に行いましたが、患者さんは手術を受けた後、心臓のリハビリテーションを受けます。当院で行った心臓のリハビリテーションの例として年2回のハイキングがあります。心筋梗塞を起こしたり、手術を受けた人たちに年に2回楽しんでいただいて運動を継続していただくことを目標にしています。また、私がゴルフ好きということもありますが、ゴルフはリハビリテーションのスポーツの中では多分最も心臓病に合うと思います。スポーツは楽しいから続きますけれど、散歩などは楽しくなくはないですけど続かないんです。ただ、スポーツには運動量に強い弱いがあって、どうしても負荷が強い時に心臓に非常に大きな負担をきたし、いろいろと問題を起こすため、スポーツのリハビリテーションは心臓病に使いにくいという問題がありますが、

ゴルフは比較的それが少ないということで採用するようにしました。これも年に2回のゴルフに出られるように普段からちゃんと鍛錬する、あるいは運動するということが目標になります。

こちらに来る前から30年くらいリハビリテーションをやって、学会の役員などもしていましたけれども、心臓病と戦う会というものを作りたいと思いました。しかし、なかなか患者さんが自分たちで作ってくれずだいぶ時間がかかりました。どうして患者さんがつくるのを待っていたかと言いますと、私自身はリハビリテーションというのは復権というふうに考えており、復権というのは心臓病で苦しんで、他の病気でもいいんですけれども、大変な目にあって、それから何回か立ち直った人が、振り返って自分の人間性の復権を果たすということが必要じゃないかと思っています。リハビリテーション自体が復権という意味があるんですね。それで自分の後で同じような心臓病になった人に手を差し伸べる力を持ったり、そういう気持ちになるころまで行って初めて復権を果たしたと言えるんじゃないかという気がしましたので、心臓病と戦う会みたいなものを自分たちで作って、その後で入ってくる人たちのためにいろいろと資することが重要なと私は思って、そういう会を作るところまで頑張りたいと思いました。とうとうできなくて5年前ぐらいに自分たちで事務局を作りました。ですけれども、その後は心臓病の方々ご自身で運営をされております。

どうしても心臓が厳しくなってきましたと移植が必要になります。でも、移植ってまだ日本で本当に知れた数しかできておらず、海外で移植するという方法もあります。海外で移植を受ける方を責めるつもりは全くありませんが、勧める側になると、自国ではドナーを供給せずに他国にお願いするのはやっぱりちょっと心苦しいところがあります。そこで現在の患者さんはどうしても人工心臓で何とかつなげなければならないということで、うちでも数例心臓移植の適用になった方を人工心臓で何とか助けるという事例もあり、現在も生きていらっしゃるような状況です。今の人工心臓は手のひらに乗るような小さなものです。ただ体外に電池を出さないといけないということで、どうしても感染などが起こるのが今でもつらいところです。ポンプは回転して遠心力で流すような方法に変わっています。だから血圧もテレビで出てくるような波の格好ではなくなりますが、十分血液を流すことができます。

3月1日に私どもは新しい病院を作りまして、その直後に患者さんから臓器のご提供を申し出られました。それも脳死からです。移植に当たって脳死と心臓死では全然違います。心臓死は誰もが認めるものですが、脳死は札幌医大の和田教授のことが影響してなかなか厳しい条件があります。今回は、脳死からの臓器のご提供ですけど、1198人目ということでした。日本はこれだけの数しか臓器提供ができていないことについて非常に残念に思います。臓器提供についてはロータリーにも力を貸していただくようお願いしたいと思っています。今は、臓器提供の意思表示は非常に簡単ですね。マイナンバーカードでも、運転免許証でも、多分ご存知だと思いますけれども、インターネットで日本臓器移植ネットワーク（JOT）のホームページに簡単に入れますし、意思表示カードというものがJOTから出ていますので、そういったこともやっていたいただければと思います。ここで、新病院（横須賀市立総合医療センター）のご紹介を見て頂きたいと思います（ビデオ放映）。

本当に名誉ある横須賀ロータリークラブの会員になることができ大変光栄で感謝しております。今日はお時間いただきましてありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 高橋 会長

週報担当 井上 智史